

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 14 No.4 2012年2月29日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

パイオニアソリューションズ、サイバーカンファレンスシステム・プライムのバージョンアップを発表

パイオニアソリューションズ株式会社(神奈川県川崎市)は、遠隔会議ソリューション「サイバーカンファレンスシステム・プライム」(以下、プライム)の最新版 Ver. 1.08(3月上旬リリースを予定)を発表。(2月17日)

今回新しく発表された Ver. 1.08 は、既存のユーザからのフィードバックをもとに、より快適に使いやすくし、また、管理者をサポートする機能も充実させる観点から、サイバーカンファレンスシステム・プライムの機能の追加や向上を行っている。

Ver. 1.08 において機能追加もしくは向上を行った点で主なものは以下の通り。

(1)狭帯域での画面応答性の向上。狭帯域(256kbps以下)でのリアルタイム画面共有時の画面応答性が以前のバージョンよりもさらに向上した。「Ver. 1.07 に比べ Ver.1.08 では、画面表示の速さが 65%向上した。」(パイオニアソリューションズ)とりわけ、テキストデータや表データなどを共有している際のスクロール操作において効果を発揮するとい

狭帯域(256kbps)環境下で画面更新時の応答検証結果



う

画面応答性の向上 (パイオニアソリューションズ資料)

(2)ソフトウェアエコーキャンセラー搭載。同社では、基本的にはエコーキャンセラー付きマイクを推奨するが、エコ

ーキャンセラー付きマイクを準備できない状況での代替活用を想定した。プライムの設定画面にて ON することでキャンセラー機能が動作するようになっている。

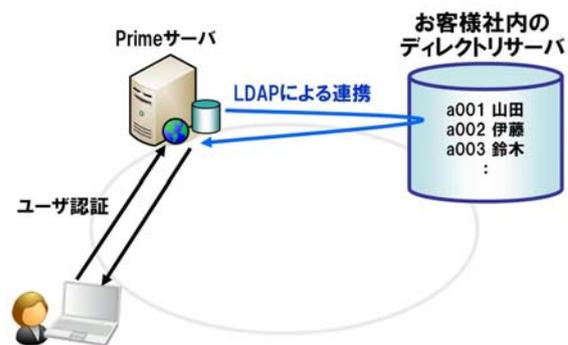
(3)多拠点参加用のプレゼンモード会議機能の強化。プレゼン発表拠点が「資料の公開」ボタンを押すと、その発表者を映す画面が発表拠点用の画面に自動的に表示されるようになった。また、システムの設定により参加拠点の操作制限(資料公開やペン操作など)を強化することもできるようになり、会議の進行を発表者主体にできるよう考慮した。

“資料の公開”ボタンを押した発表拠点の画面に、自動的に切り替わります。



発表拠点の画面に自動切り替え (パイオニアソリューションズ資料)

(4)LDAP 連携機能(オプション)。社内のユーザ情報データベース(Active Directory)と連携することができるようになった。これにより、社内データベースとプライムのユーザ情報を一元的に管理することが可能になるため、社内システムと同じユーザ ID/パスワードでプライムを利用でき、管理者の運用管理を低減が可能となる上に、利用者は社内システム同様に利用できるため、稼働率が一段と上がり、業務効率向上に貢献できる。



LDAP 連携 (パイオニアソリューションズ資料)

(5)クライアント初期設定値自動反映。管理者が決めた帯域やカメラの画質などの初期値を、クライアントPCに自動で反映させる機能。クライアントPCのインストール時や交換時に管理者がひとつひとつの端末に向いて手動で設定する必要をなくするためのもの。

(6)ネットワークディスプレイ機能の強化。ノート PC などにあるデータ資料をプライムのディスプレイ画面にワイヤレスなどのネットワークで転送し表示させる機能。誰の画面が表示されたかわかるように、ニックネームを表示することができるようにした。加えて、ネットワークが不安定な状況にあっても再接続性を向上させた。

上記6点以外では、仮想会議室の仕様でライセンスを有効活用できるように改善、システムの不正使用を防止できる端末認証機能の追加などを追加した。

今回発表された Ver.1.08 については、すでに導入済みで保守契約を締結しているユーザは、無償でアップグレードが得られるようになっている。

ニューロネットの Web 会議、SNS 機能強化した SaaSBoard5.0 の提供を開始

ニューロネット株式会社(東京都渋谷区)は、Web 会議「SaaSBoard 5.0」の提供を開始した。(2月8日)



SaaSBoard(ニューロネット資料)

同社では、2008 年から SNS 型のホワイトボードを提供してきたが、この度その機能をさらに強化し、Web 会議

SaaSBoard バージョン 5.0 として提供開始する。

これまで SaaSBoard は、Web 会議としては代表的な二つのタイプ、つまり、ID 型および会議室型といった、これまでそれぞれに応じたプラットフォーム形態でサービスを提供してきたが、今回の SaaSBoard 5.0 の提供を期に両タイプのプラットフォームを統一した。

これにより、たとえば、ID 型において従来他社では最低 2ID 以上の契約が必要だが、SaaSBoard の ID 型はメールアドレスでの招待が可能になったため、小規模ユーザにおいては、1ID(2,980 円/月か 4,980 円/月)契約で拠点間コラボレーションが可能になった。

機能強化の面では、画面共有圧縮方式の変更および高速化、Web ボード機能の強化、サーバー環境と通信方式の更なる安定化、スマートフォン連携機能の強化などが行われている。

また、バージョン 5.0 リリースに伴い 2 月 20 日に同社より新しい価格体系の発表が行われた。

価格の改定は、Room コースのみ行われ、ID 型の Collabo および Personal コースは従来の価格のまま据え置かれる。

新しい価格は、Room6Lite(同時接続数 6):18,000 円/月(同旧価格:9,800 円/月)~Room100Lite(同時接続数 100):298,000 円/月(同旧価格:158,000 円/月)。この価格帯に 6 種類のコースが揃っている。

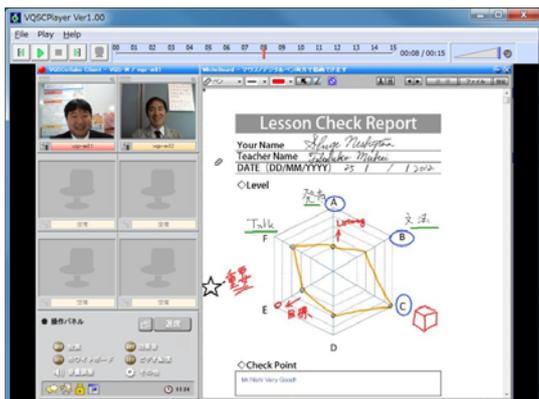
加えて、Room6Regular(フル機能タイプで同時接続数 6):30,000 円/月(同旧価格 19,800 円/月)~Room100Regular(同時接続数 100):480,000 円/月。この価格帯にも 6 種類のコースが揃っている。

SaaSBoard は初期費用不要、月額固定の使い放題の価格体系を特長としている。今回価格改定を行っても Web 会議業界一般価格の 1/2 程度に収まるという。

同社では、SaaSBoard について、ビジネス向け BtoB を中心に展開しているが、SNS コミュニケーション、スマートフォンでの利用、1ID 契約で安価な運用等の機能強化で、学生や広く一般に向けた BtoC 市場向けのコミュニケーションプラットフォームとして販売を展開していくという。

VQS コラボ、クライアントソフトバージョンアップ、録画・再生機能、PDF ダイレクトアップロード、映像 30 コマ対応

VQS マーケティング株式会社(京都市)は、同社が提供する Web 会議・遠隔会議システム「VQS コラボ Version3」と「VQS コラボ V3 for Learning」のクライアントソフトを1月25日バージョンアップした。(1月25日)



VQS コラボ プレイヤー画面(VQS マーケティング 資料)



資料アップローダーの画面(VQS マーケティング 資料)

バージョンアップによる主な追加機能は以下の通り。

(1)録画・再生機能追加。従来オプション対応だった録画機能を標準搭載。クライアントソフトにある録画ボタンを押すだけでVQS コラボ画面、ホワイトボード、またはデスクトップ全体を録画できる。録画権限設定も可能。録画したデータは、クライアントソフトと専用プレイヤーで再生可能。情報共有や議事録として活用できる。Windows Vista 以降対応。

(2)ホワイトボード資料のPDF 文書ダイレクトアップロード対応。PDF 文書を資料アップローダーでJPEG 形式にダイレクト変換し、ホワイトボードにアップロードできるようになった。これまでは、JPEG 形式変換、リサイズ、アップロード操作を個別に操作する必要があったが、資料アップローダー

の操作だけで実現できるようになった。

(3)映像コマ数が1秒あたり最大 30 コマに向上。映像コマ数が1秒あたり最大20コマから最大30コマに向上。結果とくに被写体の速い動きに関して、従来と比べ映像がさらに滑らかになったという。

VQS コラボ Version3 は、通常版、クイックスタート版を提供しており、会議型、セミナー型、少人数型に対応している。一方、VQS コラボ Version3 for Learning は、通常版、クイックスタート版を提供しており、交流型、一斉指導型、少人数型、個別指導型に対応している。

メディアプラス、revolabs 社 1.9GHz 帯デジタルワイヤレスマイクシステムの出荷を開始

株式会社メディアプラス(東京都千代田区)は、米 revolabs 社のデジタルワイヤレスマイクシステムの出荷を2月1日より開始。これは昨年11月2日に発表された販売代理店契約締結に基づくもの。(2月1日)

対象商品は、1.9Ghz 帯デジタルワイヤレスマイクシステム「ExecutiveHD」、小規模向け「HDVenue」シリーズとなる。



Executive HD (エグゼクティブHD) シリーズ、4台をカスケード接続することで最大32ch同時使用可能。(メディアプラス資料)

Executive HD 4ch/8ch は、4台のレシーバーユニットをカスケード接続することで、最大32chの同時使用が可能なデジタルワイヤレスマイク。従来のA帯/B帯もしくは2.4GHz帯を使用したデジタルワイヤレスマイクとは異なり、1.9GHz帯(DECT)に128bit暗号化通信を使用するため、使用申請の必要も混信の危険もないという。マイクは、タイピン型、ハンド

マイク用アダプター、カントリーマンマイク用アダプターの他、バウンダリ型(指向性、無指向性)を用意。



小規模展開向けの2chモデル HD Venue(ベニュー)(メディアプラス資料)

テレビ会議システム用マイクとして使用することで、よりナチュラルなコミュニケーションが可能になるとメディアプラスでは説明する。

製品・サービス動向-海外

Compunetix 社、ハイエンド CONTEX Summit 向けの録音再生機能の強化

米 Compunetix 社は、同社が提供するハイエンド音声会議用多地点接続装置「CONTEX Summit」向けの録音再生機能の強化を実施し、「CDRP 3.0」を発表した。(2012年1月23日)

CDRP 3.0 は、「CONTEX Digital Record and Playback 3.0」の略。VoIP ネットワークインターフェイスを搭載し、手動もしくは自動にて録音と再生が行える。また再生については、FFとREWに対応。また録音の最初まで戻るといった操作を電話機のDTMFコマンドで行える。

また、Web インターフェイスを提供する。Web 画面を通して録音ファイルの管理や編集、保存(フォーマットは多数対応)、あるいは録音ファイルへのアクセス履歴の管理も行える。加えて、Web インターフェイスへのアクセスは、セキュアにログインできるようになっており、また、パミッションレベルも個々に設定できる。

Compunetix 社の多地点接続装置は、これまで 28 カ国

100 万ポートの設置実績がある。

ビジネス動向-国内

アライドテレシス、ポリコム社ビデオ会議システムの販売を開始

アライドテレシス株式会社(東京都品川区)は、ポリコム社のビデオ会議システム「Polycom HDX シリーズ」および関連製品の販売を1月31日より開始。(1月31日)

主な取扱製品は、ビデオ会議システムについては、「Polycom HDX 4000」、「HDX 6000」、「HDX 7000」、「HDX 8000」、「HDX 9000」。多地点接続システムについては、「Polycom RMX 1500」、「RMX 2000」、「RMX 4000」。その他の関連製品も取り扱いを開始するとしている。

アライドテレシスによると、ビデオ会議システムなどの映像と音声コミュニケーションにおいては、信頼性の高いネットワーク技術が重要になるという。今後一層の普及が期待されているビデオ会議システムの分野において、同社は、ネットワーク専門会社として、ネットワークインフラを含めたワンストップなソリューションを提供していく考えだ。

ビジネス動向-海外

Chorus Call 社、Incomm Solutions 社の買収を発表

米 Chorus Call 社は、同社の子会社である Incomm Conferencing 社が、Incomm Solutions 社を買収すると発表。(2011年11月16日)

Chorus Call 社は、米 Compunetix 社の姉妹会社(sister company)。遠隔会議システム関連のソリューションを提供する Incomm Solutions 社を買収することで、顧客へのサービスの強化を図る。

Incomm Solutions 社は、11 年前より事業を行っており、Chorus Call 社との関係は7年に及ぶという。Chorus Call 社と Compunetix 社の両者の社長を兼務する Giorgio Coraluppi 氏は、InComm 社と Chorus Call 社は、合併に相応しい(compatible company)とコメントを出している。

ClearOne 社、VCON 社を 450 万ドルで買収

米 ClearOne 社は、イスラエルの VCON Video Conferencing 社の買収を発表。(1 月 27 日)

買収金額は、450 万ドル。ClearOne 社は、VCON 社の資産(技術や特許と思われる)を買収するが、負債および現金などは引き継がない意向。今回の発表は、1 月 27 日に行われたが、その後手続き完了の発表は、2 月 22 日に行われている。

ClearOne 社は、これまで市場において電話会議システムのリーダーシップを取ってきたが、今回テレビ会議システムの専業メーカーである VCON 社を買収することで、テレビ会議事業に本格的に乗り出す。

VCON 社は、2005 年に The Emblaze Group 傘下に入り、テレビ会議システム製品の開発を行っていたが、2011 年 5 月に、投資グループに買収されて非公開企業として事業展開を行っていた。

AVI-SPL 社、Iformata Communications 社を買収

米 AVI-SPL 社は、米 Iformata Communications 社の買収を発表した。(1 月 25 日)

AVI-SPL 社は、テレビ会議に実績が多いシステムインテグレーター。今回 Iformata Communications 社を買収することで、Iformata 社が運営するビデオネットワークオペレーションズセンター(VNOC)事業の他、「VNOC Symphony マネージメントプラットフォーム」技術を取得する。

AVI-SPL は、2009 年以降テレビ会議事業拡大を図ってきた。2011 年の売上は、2 億ドル規模に達し、取扱案件の半分は、ビデオ会議システム関連という。これにより、AVI-SPL 社の、クラウドサービス、リモートサービス、オンサイトサービスである「Unify ME」を強化する狙いがある。

Iformata Communications 社は、VNOC ツールのパイオニア。2004 年設立。VNOC Symphony マネージメントプラットフォーム技術を基盤としたエンドツーエンドのオートメーションサービスで事業を展開してきた。

ライフサイズ社、パートナー向けのトレーニングサービス LEN を開始

米ライフサイズ社は、パートナー向けに、オンラインソーシャルラーニングプラットフォーム(LifeSize Enablement Network, LEN)の提供を開始した。(1 月 24 日)

この LEN は、ライフサイズ社の製品やソリューションを取り扱う販売パートナー向けのトレーニングサービスで、セールス、設置担当者、システム管理者、サポート要員向けに提供される。この LEN を活用することで、パートナー企業の担当者は、ライフサイズ社製品についての理解を深めることができるとともに、セールス技術の向上も図れるという。結果、顧客対応能力を高めることでビジネスの拡大が期待できるとしている。

このトレーニング用のコンテンツは、ライフサイズ社の本部があるオースチン(テキサス州)の LEN スタジオで制作される。クイズ、セールスアシスタンス、ニュースキャストの他、ベストプラクティス、テクニック、エチケットなどのコンテンツ教材を、HD ビデオ会議システムを使って提供する。また並行して、LLX(LifeSize Learning Exchange)も提供。情報の共有、ビデオの制作、コンテンツのダウンロードなどが行えるようになっている。

担当者が楽しんで行える参加型のトレーニングという。従来のプレゼンや 3D アバターを使ったトレーニングよりも効果はさらに向上すると期待する。従来のトレーニングのあり方を変えると自負している。

ポリコム社、通信事業者向けのホールセール型サービスを提供するクラウド戦略を発表

米ポリコム社は、通信事業者向けのホールセール型サービス「Polycom RealPresence クラウド」を発表した。(米 1 月 18 日、日本:2 月 8 日)

Polycom RealPresence クラウドは、サービスプロバイダーがクラウドモデルでビデオサービス(VaaS)ソリューションを顧客に提供することを可能にするサービス。多地点ビデオ会議の包括的なマネージドサービスが含まれ、国際標準に対応した会議室用、モバイル用、PC 用、ウェブベース端末に加えて、

「Microsoft Lync 2010」、「IBM Sametime」、TIP プロトコルなど多くの接続オプションをサポート。さらに、通信事業者クラスの拡張性や信頼性、セキュリティにも対応する。Polycom RealPresence ネットワークについては、2011 年に HP 社から買収した旧 Halo/HVEN ネットワークを活用するので、サービスプロバイダーは、企業ユーザに対して迅速に B2B のビデオサービスソリューションを提供できるメリットがある。

ポリコム社としては、ユビキタス ビデオ コミュニケーションの実現を目指しているため、Polycom RealPresence クラウドは、同社のクラウド戦略の重要な要のひとつ。クラウド上でビデオを推し進める上でサービスプロバイダーは、ポリコム社にとって重要なパートナーとなる。サービスプロバイダーのビデオサービスへの参入障壁を取り払う目的から、今回 Polycom RealPresence クラウドが発表された。

米 Wainhouse Research 社によると、世界の UC マネージドサービスの市場規模は、2015 年には、約 50 億ドル、今後 5 年間の年平均成長率が 30.7%になると予測。市場成長への期待感から、ポリコム社としては、クラウド戦略に今後力を入れていくようだ。

ユビキタス ビデオ コミュニケーションの実現には、ポリコム社では以下の取り組みが重要と考える。(1) サービスプロバイダーからのクラウドベースビデオサービスの提供。(2) モバイルデバイス向けのソフトウェア提供。(3) オンプレミスでの提供。(4) ソーシャルアプリへのウェブ提供。(5) PC、タブレットなどのデバイスへの組み込み。(6) オープンスタンダードと相互運用性。

Polycom RealPresence クラウドサービスは、現在特定のサービスプロバイダーに限定して提供されている。日本での提供は未定となっている。

ポリコム、4 名の北米地域担当副社長とワールドワイドシステムエンジニアリング担当副社長の人事を発表

米ポリコム社は、北米を拠点にする営業幹部を新たに 5 名追加したことを発表。ポリコムの企業向けビデオコラボレーションソリューションの普及と導入を促進する役割を担う。(米 1 月 25 日、日本:2 月 8 日)

北米のエリア担当副社長 (AVP) には、Greg Prindle 氏 (エンタープライズ東部地区)、Peter Elmgren 氏 (エンタープライズ西部地区)、Joe Vranicar 氏 (エンタープライズ中央部地区)、Dean Ash 氏 (エンタープライズ南部地区) がそれぞれ就任。

Greg Prindle 氏は、シスコシステムズからポリコム社へ入社。Peter Elmgren 氏は、アバシア、ルーセント、AT&T そしてインテルにて勤務経験。Joe Vranicar 氏は、ヒューレットパッカードから。それ以前は、ジュニパーネットワークや EMC、シスコでの経験がある。そして、Dean Ash 氏は、シスコ、Amdahl、IBM を経てポリコムに入社している。彼ら 4 名の AVP は、David Ruggiero 氏 (ポリコムノースアメリカ社社長) に報告する。

一方、ワールドワイドシステムズエンジニアリング担当副社長には、Ashan Willy 氏が就任。ジュニパーネットワークやシスコでの経験がある。Ashan Willy 氏は、Tracy Newell 氏 (グローバルセールス担当上級副社長) に報告する。

人事強化によって、重要なチャネルパートナーや協業パートナーとともに、ハイタッチによる企業顧客への体制を拡大していくのが狙い。

ポリコム社は、2 名の技術担当役員を任命

米ポリコム社は、Rick Levenson 氏と A.E. Natarajan 氏の 2 名を技術担当役員に任命したことを発表。(米:1 月 31 日、日本:2 月 8 日)

両氏は、「Polycom RealPresence プラットフォーム」や端末デバイスの技術革新の任務。Rick Levenson 氏は、UC デバイス担当グループ副社長、A.E. Natarajan 氏は、RealPresence

プラットフォーム&ソリューション担当グループ副社長にそれぞれ就任。

Rick Levenson 氏の前職は、マイクロソフト社のスピーチクラウドサービスチーム。それ以前は、Tellme Networks 社、Sun Microsystems 社、Xerox PARC 社、Openware 社などで勤務経験がある。特許については 25 持っている。

A.E. Natarajan 氏は、前職のシスコシステムズでエンジニアリング担当副社長を勤めた。その他、Novell 社や 7 社のスタートアップベンチャーでの経験もある。

両者は、ユニファイドコミュニケーション担当上級副社長兼ジェネラルマネージャー、最高開発責任者 Sudhakar Ramakrishna 氏に報告する。

市場動向-国内

IDC Japan、ユニファイドコミュニケーション市場企業ユーザー調査結果発表

IDC Japan 株式会社(東京都千代田区)は、国内ユニファイドコミュニケーション市場 企業ユーザー調査を実施、その結果を発表した。(1月5日)

今回の調査では、2011年8月に従業員10人以上の企業774社に対して調査を行った。

本調査によると、VoIPシステム/サービスを自社の音声プラットフォームとして利用している企業ユーザーは、51.3%となった。一方、ユニファイドコミュニケーションについては、電話会議/Web会議/ビデオ会議を含むIP会議システムは、40.6%の企業ユーザーが導入していると回答。2010年の調査と比較すると、VoIPシステム/サービスについては、同等の結果、またユニファイドコミュニケーションについては、導入率が12.8ポイント上昇している。

VoIPシステム/サービスの導入動機は、インフラへの期待がコスト削減に強くシフトしており、それを反映してコスト削減が多数を占めていた。対して、ユニファイドコミュニケーションは、「通話履歴」や「プレゼンス管理」などの機能も2010年調査と比較して導入率が上昇しているという。

本調査の詳細については、「2011年 国内ユニファイドコ

ミュニケーション市場 企業ユーザー調査」(J12380101)に報告されている。購入についての詳細は同社へ確認要。

セミナー・展示会情報

<国内>

会議の効率化を実現!『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程:3月7日(水)、14日(水)、21日(水)、28日(水)
※全ての日程で13:30~14:30、15:30~16:30の2回開催
会場:NEC情報システムズ 本社(東京都港区)
主催:日本電気株式会社、株式会社NEC情報システムズ
詳細・申込:<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

RADVISION セールスセミナー

日時:3月15日(木)
午前の部:10:30~12:30
午後の部:15:00~17:00※同じ内容となります。
会場:アイオス五反田駅前ビル3階セミナー会場(東京都品川区)
主催:ラドビジョンジャパン株式会社
詳細・申込:<http://www.radvision.jp/contents/event/201202/radvision-315.html>

dtc-forum、ツイッター、フェイスブック

ツイッターとフェイスブック、dtc-forumを通して遠隔会議関係のニュースなど関連情報を日々配信しています。よろしければご覧ください。

>dtc-forum メーリングリスト

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

> Twitter

日本語版: <https://twitter.com/cnarjapan>

英語版: <https://twitter.com/cnarjp>

> Facebook

「テレビ会議・Web会議・電話会議 & ユニファイドコミュニケーション研究会」

<http://www.facebook.com/unifiedcom>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

次号もよろしく願い致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本 啓介